

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議負担金(R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境エネルギー生活部

省エネ・再エネ社会推進課 エネルギー係

電話番号：058-272-1111(内2942)

E-mail：c11268@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額

2,000 千円

(現計予算額：

0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,000	1,000	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額	2,000	1,000	0	0	0	0	0	0	1,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

2050年の「カーボンニュートラル」達成の重要な役割を占める水素社会実現に向け、本県、愛知県、三重県、名古屋市及び経済3団体、中部圏水素利用協議会は、2022年2月に、中部圏における大規模水素サプライチェーンの社会実装を共同で推進・連携することを目的とした「中部圏における大規模水素社会実装の実現に向けた包括連携協定」を締結し、この取組を推進するため「中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議」が設立された。

本会議では、水素・アンモニアの需要創出・利活用促進、普及啓発、理解促進などに取り組んでおり、本県も会員として、中部圏の自治体、経済団体等と連携して取組を進めていく必要がある。

(2) 事業内容

「中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議」における事業実施に必要な経費を負担

- ・推進会議の運営(ワーキンググループの開催等)
- ・セミナー、見学会等の開催
- ・展示会への出展、ワークショップの開催
- ・公式ウェブサイトの運営 等

(3) 県負担・補助率の考え方

水素社会実現に向けた取組を推進するため、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	2,000	推進会議の運営、セミナー、見学会等の開催、展示会への出展、ワークショップの開催、公式ウェブサイトの運営 等
合計	2,000	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

- (1) 各種計画での位置づけ
岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画（改訂中）
- (2) 国・他県の状況
愛知県、三重県、名古屋市、碧南市、知多市、東海市、恵那市、四日市市等と共同で拠出
- (3) 後年度の財政負担
事業の効果を検証しつつ、2030年度まで実施。
- (4) 事業主体及びその妥当性
水素社会実現には、中部圏での広域的かつ大規模な取組が必要であるため、中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議に負担金を拠出することは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

水素利活用促進を通じて、岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画にて目標を設定しているF C V普及台数を達成すること。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R12)	達成率
F C V 普及台数 (累計)	108台	(暫定) 116台	295台		1,178台	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの開催 「中小企業等のためのCO2フリーエネルギー導入に関する講演会」 (マーサ21 R6. 2. 8) ・ワークショップの開催 ぎふ住宅フェア (R5. 10. 7、8)、イオンモール土岐 (R6. 1. 21)
	指標① 目標：295台 実績：108台 達成率：37%
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会の開催 ものづくり岐阜テクノフェア2024 (岐阜メモリアルセンター R6. 10. 25、26) ・ワークショップの開催 岐阜市ゼロカーボンフェスタ (メディアコスモス R6. 11. 4) ・展示会の開催 再生可能エネルギー・水素の先進事例講演会 (県庁 R7. 2. 5) 「～事業者による先進事例やエネルギー地産地消の取組～」
	指標① 目標：295台 実績：116台 (暫定) 達成率：39%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
<p>(評価)</p> <p>3</p>	<p>2050年カーボンニュートラルに向けて、水素社会の実現については国策で取り組まれており、令和5年6月には水素基本戦略の改定が行われた。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
<p>(評価)</p>	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
<p>(評価)</p> <p>1</p>	<p>事業の実施に当たっては、推進協議会員等と意見交換、情報交換等を行いながら、適切な事業の執行について検討を行っている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>水素に関する設備や燃料電池自動車、そもそもの水素が高価であり、県民生活や経済活動に浸透する間に時間を要する。</p>
--

(次年度の方角性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>推進協議会員等と連携しながらより効果的な取組を行っていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	
--	--